

きたそらち

2025
12月号
No.297

～農業振興を通じて地域社会へ貢献～



凍える早朝の収穫作業。冷たい土に手を伸ばし、長芋を丁寧に掘り起こします。北海道の厳しい寒さが、ねばり強い長芋を育てます！

→記事の詳細は2ページ

JAきたそらちでは、ホームページ/Facebook/Instagram/YouTubeで、魅力満載の情報を発信中です！ぜひ、ご覧ください！



ホームページ



YouTube



Facebook



Instagram



JA_HITASORACHI

～ 今月のヘッドライン ～

- ぶかがわアップルフェスタ2025 …… 2
- 幌加内町のバイオコクス事業
北海道新エネ大賞を受賞 …… 5
- ボランティアグループあみていえ
第1回子ども食堂 …… 7
- 拓殖短期大学で出前授業 …… 9



ふかがわアップルフェスタ2025



10月25日と26日の2日間、深川市果樹協会は深川市の道の駅ライスランドふかがわで「ふかがわアップルフェスタ2025」を開いた。リンゴが旬を迎えるこの時期に毎年行われている恒例のイベントで、店頭には「昂林」や「旭」、「ジョナゴールド」など11種類のリンゴが並んだ。

同イベントの開催を心待ちにしていた来場客が長蛇の列を作り、販売担当者に「どれが一番甘い品種ですか」「蜜が入っているものはありますか」「歯ごたえの良いリンゴはどれですか」など、甘さや食感などの特徴を聞きながら、好みの品種を購入した。人気の品種「紅将軍」は1ケース5kg詰めの販売も行われ、一度に数ケースまとめ買いする姿も見られた。2日間合計で約2,200kgの商品が販売された。



深川産リンゴは市内果樹園の直売所を中心に販売されている。収穫作業は9月下旬から11月下旬。同イベントで販売を担当した当JA青果部職員は「深川の美味しいりんごを是非たくさんの方に食べてもらいたい」と話す。

【営農企画課 白川】

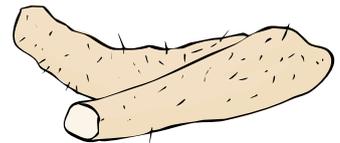
青果部

深川特産「ねばり長芋」収穫作業 即売会も大盛況

10月31日から11月16日にかけて、深川支所メム地区で特産「ねばり長芋」の収穫作業が行われた。きたそらち根菜生産組合（河合暢組合長）の3戸が作付している。

河合組合長の圃場では、11月6日から7日間作業が行われた。油圧ショベルで圃場に1m以上の溝を掘り、顔を出した長芋を1本1本丁寧に手作業で収穫した。収穫した長芋はすぐに洗われた後、コンテナに詰められ当JAに運ばれた。

長芋の共選作業は、11月4日から当JAの青果部出荷施設で行われた。集荷した長芋が次々とコンベアーに流され、パート作業員が慣れた手つきで規格ごとに選別し箱詰めを行った。大きさ別では、3Lサイズ以上が全体の56%を占めており、良質な長芋が出荷された。



11月15日、16日には、「長芋即売会」が同施設をはじめ同市内3会場で行われ、穫れたての長芋を求め、多くの来場客が列を作った。人気の2Lサイズをはじめ様々な規格が販売され、来場客は好みのものを求めた。2日間、3会場あわせて1,000箱超を売り上げ、今年も大盛況だった。即売会で生産者として店頭立った河合組合長は「『ねばり長芋』は粘り気が強く甘みが特徴の長芋。近年、生産者戸数が減少し全体の収量も減っている中でも、即売会をはじめ毎年多くの方にお買い求めいただきとても感謝している。これからも、色々な人に食べてもらいたい」と語った。



「ねばり長芋」は、同市内や旭川市内のスーパーマーケットで販売された他、同市のふるさと納税の返礼品としても人気を集めた。

【営農企画課 坪】





消費者に支持されるゆめぴりかを 「ゆめぴりかの匠」表彰式



11月5日、「ゆめぴりかの匠」の表彰式が岩見沢市内で行われ、当JAからは2戸の生産者が受賞した。

「ゆめぴりかの匠」とは、精米タンパク値6.8%以下で出荷率が5年連続して全道平均を上回った生産者に与えられる称号。空知地区からは生産者12名が受賞した。

この日、「空知地区ゆめぴりかコンテスト」に続いて行われた同表彰式には、同賞を受賞した(有)竹下村塾 竹谷全さん(北竜支所)が出席。「空知地区「ゆめぴりか」のブランド形成に向けた連絡協議会」の神尾誠会長(一已地区)より表彰状を受け取った。

受賞した竹谷全さんは「5年連続して低タンパク米をより多く出荷する事は難しいこと。今後も頑張って生産していきたい」と話した。

<受賞者は以下の通り(敬称略)>

北竜支所 高畑克洋、(有)竹下村塾



【米穀課 植田】 「ゆめぴりかの匠」を受賞した竹谷さん(左)

販売部

深川産ふっくりんこ

BEST"F"SELECTION受賞

11月11日、「ふっくりんこ産地サミット」加盟産地が技術と品質を競い合う「BEST"F"SELECTION 2025」が、苫小牧のグランドホテルニュー王子で開催された。この「ふっくりんこ」の頂上決戦において、ふかがわまい生産組合(伊藤裕美組合長)が生産する「ふっくりんこ」が見事「BEST"F"SELECTION」を受賞した。

今回の審査を担当したのは、長年にわたり回転寿司クリッパーなどで「ふっくりんこ」を使用した寿司を提供してきた実績を持つ「(株)久恵比寿(ひさえびす)」。寿司に最適な米を知り尽くしたプロの目による厳正な審査の結果、当JA深川産の「ふっくりんこ」が最高の評価を受けた。

伊藤組合長は、「驚きました。自分たちがやってきたことが評価されて本当に嬉しい」と、生産者の皆様の日々の努力が実を結んだことへの喜びを笑顔で語った。

受賞した当JA深川産「ふっくりんこ」は、令和8年2月から5月までの期間、「(株)久恵比寿」の「回転寿司クリッパー」「回転寿司旬楽」の全店舗で提供される。

【米穀課 植田】





阪神百貨店 北海道物産展



10月15日から27日までの期間、大阪府大阪市梅田の阪神百貨店で開催された「北海道物産展」に、当JAのふかがわまい生産組合が出展し「ふかがわまい」を販売した。

15日から23日までは「ななつぼし」「ゆめぴりか」「ふっくりんこ」の3品種を5kg、1kg、無洗米5kgのラインナップで販売。24日からは「ななつぼし」「ふっくりんこ」の5合升すくい取りを実施した。

会場では、「深川市のお米は美味しい」「先日買って美味しかったので、また来ました」といった声を多くいただいた。特にすくい取り体験では、大人から子どもまで多くのお客様が参加され、笑顔あふれる大盛況のイベントとなった。

結果として、袋詰め販売では529袋、すくい取りでは650回以上の売上を記録。多くの方に深川産のお米の魅力を知っていただく貴重な機会となった。

【深川支所 亀島】



うりゅう米新米販売キャンペーン 稚内で開催

11月12日、当JA雨竜支所が稚内市のスーパーマーケット相沢食料百貨店で「うりゅう米 新米販売キャンペーン」を開催した。今回は、小山武 雨竜地区代表理事をはじめとした同支所の役職員3名が参加し、うりゅう米の新米をPR販売した。

午前9時の開店と同時に多くのお客様が訪れ、新米の香りに包まれた一日となった。終了時刻の午後3時まで客足が途絶えることなく、店内は終始賑わいを見せた。

恒例の「お米すくいどり体験」は先着100名限定で行われ、5kg袋を1袋購入ごとに、3合升にいっぱいのお米をすくい取っていただいた。お客様自身が直接お米を手に取り、その重みや手触りを感じる様子は、大人も子どもも笑顔があふれる光景となり、多くの方が楽しんでいる様子だった。

今回の販売では、人気の「ななつぼし」5kg袋51袋と「ゆめぴりか」5kg袋7袋の合計58袋となり、地域の皆様にうりゅう米の美味しさをお届けすることができた。

【雨竜支所 伊藤】



「そば殻を再生エネルギーへ」

幌加内町のバイオコークス事業 北海道新エネ大賞を受賞

10月20日、北海道庁で「令和7年度北海道省エネルギー・新エネルギー促進大賞」の表彰式が行われ、幌加内町と当JA、近畿大学が連携して取り組む『そば殻を原料とした低コストバイオコークス製造技術の実証事業』が、新エネルギー部門の大賞を受賞した。日本一のそば生産地である同町で、地域循環型エネルギーモデルを構築した点が高く評価された。

表彰式には、本事業を代表して同町の細川雅弘町長や当JA田丸利博代表理事専務など計6名、また省エネルギー部門の大賞や両部門で奨励賞に選ばれた団体の代表者らが出席。三橋剛北海道副知事は「北海道の優れた技術と企業の挑戦を今後も力強く応援していきたい」と受賞者に賞状を授与した。

今回受賞した本事業は、これまで廃棄に費用を要していた「そば殻」を地域資源として再定義し、“負担”から“価値”への転換を図るもの。そば殻を圧縮・成形して作る「バイオコークス」は、もみ殻や稲わらと同様に地域内で発生する副産物を有効活用する次世代型バイオ燃料で、化石燃料の代替とエネルギーの地産地消を実現している。また北海道農業で発生する残渣（もみ殻・麦稈など）への応用も期待され、CO₂削減効果への波及が見込まれている。

田丸専務は「地域に根ざすJAとして、農業の現場から生まれる副産物を“新たなエネルギー”として活かすことは、持続可能な農業への挑戦そのもの。生産者、企業、大学、行政が一体となって地域の未来をつくるこの取り組みを、次の世代へ確実に引き継いでいきたい」と語った。

現在は、「幌加内町バイオマス有効活用コンソーシアム（構成：同町、当JA、エア・ウォーター北海道(株)、JFE条鋼(株)、(株)巴商会）」が実証を進めており、道内外からの視察が相次いでいる。地域の知恵と連携が生んだ新たな資源循環の形として、今後の発展が注目されている。

【営農企画課 松本】



幌加内支所

幌加内町生産組合が新米を贈呈

教育委員会・保育園へ

11月12日、幌加内町うるち米生産組合の古林一文組合長が町内の双葉保育園とみゆき保育園へ「ゆめびりか」の新米を贈呈した。

また同日、古林組合長と幌加内町もち米生産組合の中西博組合長および谷岡正則副組合長が同町教育委員会を訪れ、「ゆめびりか」と「きたゆきもち」の新米を贈呈した。村上雅之教育長からの今年の作柄についての質問に対し、中西組合長は「収量は昨年と比べ少し減少したが、品質は良好だった」と答えた。教育委員会へ贈呈された新米は、町内の小・中学校、高校の給食で提供される。

【幌加内支所 中原】



地域の恵みを味わう 多度志小学校でそば打ち・そばの実おにぎり作り体験

10月22日、当JAは深川市多度志小学校の全校児童13名を対象とした「そば打ち・そばの実おにぎり作り体験」を行った。

多度志産新そば「キタワセ」を使ったそば打ち体験では、金融共済部の伊藤強部長の実演からスタート。華やかな手さばきに児童たちは釘付けになり「きれい」と言葉をもらっていた。

実演後、児童たちは協力しながらそば打ちに挑戦。粉と水を混ぜて生地を作り、麺棒で丁寧に伸ばしていった。最後の切る作業では、実演を思い出しながら真剣な表情で取り組む姿が見られた。

そばの実おにぎり作りでは、揚げたそばの実、揚げ玉、かつお節などを混ぜ合わせた。児童たちは思い思いに握り、大きい物や小さい物、まんまるな物と個性豊かなおにぎりをあっという間に完成させた。

昼食時には、自分たちで作ったそばとおにぎりを、家族と一緒に味わい、「おいしい。早くおかわりしたい」と、手作り尽くしの食事を堪能していた。

【営農企画課 坪】



農業 振興部

自分たちで育てた
お米を味わう

北光保育園でバケツ稲体験

深川市の北光保育園の園児たちは、9月から11月にかけてバケツ稲の稲刈り、脱穀・粳摺り、おにぎり作り体験を行った。使用した稲は「ふっくりんこ」で5月下旬から園児たちの手で植え大切に育てたもの。

9月17日に稲刈りを実施。当JA職員と一緒に鎌を握り集中しながら稲を刈り取った。また、稲架掛けも行い、束ねた稲穂をねじる作業は難しく、苦戦している園児には「がんばれ！がんばれ！」とみんなで応援した。

また10月16日は、脱穀と粳摺りに挑戦。初めての脱穀作業に園児たちは戸惑いながらも一生懸命に稲穂から粳を取り外した。続く粳摺り作業は、野球ボールを使用しザルに入れた粳が玄米になるまでかいいいに摺り上げた。園児たちは、「ボールでゴロゴロすると粳が取れて玄米になるのが楽しかった！」と笑顔で答えた。

さらに11月5日には、最後の体験となるおにぎり作りを行った。具材はシャケ、おなか、ツナマヨの中から選び、各々好きな形でおにぎり2つを楽しく作った。園児たちは元気よく「いただきます」の合図とともに一斉にほお張り、自分たちで育てた新米を美味しく味わった。

田植えから収穫、そして実食までの体験を通し、園児たちは「毎日の水やりは大変だった」などと感想を述べた。食べ物の大切さや米作りの大変さを実感することができた。

【営農企画課 坪】



ボランティアグループあみていえ 『第1回子ども食堂』 開催

10月25日、深川市社会福祉協議会が主催する「深川子ども未来食堂」にて、JAきたそらちボランティアグループあみていえが『第1回子ども食堂』を開催した。当日は会員10名が参加し、北空知管内の子ども（18歳以下）とその保護者を対象に「紙コップフラワーアレンジメント」と昼食の提供を行った。

紙コップフラワーアレンジメントでは、計16名の親子が参加。紙コップにハロウィン仕様のデザインペーパーやシール、カラーペンでデザインし、中にフィルムとオアシスを設置してから生花を挿した。全員が同じ花材を使っただけの制作となったが、十人十色の異なるアレンジが完成し、参加者は「一緒にやったお母さんと同じ花なのに全然違う形になっておもしろい。またやってみたい」と話す。

昼食では、JAきたそらち産米や深川産・北竜産の野菜、ふかがわポークをふんだんに使い、カレーライス・キャベツとミニトマトのサラダ・かぼちゃ団子を計33名の親子へ提供した。おかわりをする子どもも多く見られ、昼食を食べた児童は「野菜がたっぷり。美味しくて止まらない!」と笑顔を見せた。

同グループ会長の田畑陽美氏は「工作の時間も食事の時間も子ども達の笑顔に溢れ、『美味しい』の一言が嬉しく温かいひとときになりました。今後も、子ども達が集う場づくりを続けていければと思う」と話した。

【営農企画課 石野】



農業 振興部

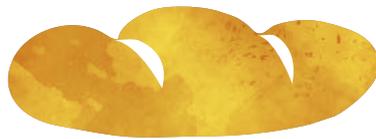
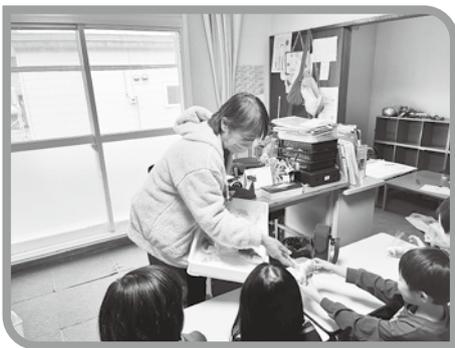
ボランティアグループあみていえ 管内小学校学童へ米粉パン寄贈

ボランティアグループあみていえは、11月4日に深川市立一巳小学校・同市立納内小学校、10日に同市立深川小学校・北竜町立真竜小学校の学童保育へ米粉パンを寄贈した。両日合わせて会員10名が参加。寄贈の前に同市のアグリ工房あびで、深川産のお米を使用した米粉を加工・梱包した。

寄贈の際には、「米粉とは一体どんなものなのか」や、お米の特徴、豆知識などをクイズ形式で出題し、解答を聞いた子ども達は「そうだったんだ!」「知らなかった!」と興味津々な様子だった。実食では、小麦のパンと全く違う風味や食感に驚きながらも「いつものパンより少し甘い」「何も塗らなくても美味しい」と笑顔を見せた。

同グループの田畑陽美会長は「三年目となる米粉パン作りは、今年も子ども達の笑顔に出会える楽しい時間となった。時間を設けてくださった各学童教諭の皆様や、参加いただいた会員の協力に感謝し、今後も心を込めた活動を続けていきたい」と話した。

【営農企画課 石野】





10月30日、JAきたそらちの各加工部を対象とした「HACCPに関する講習会」が開催され、10名が参加した。深川保健所専門員の齋藤靖香氏を講師に迎え、HACCPの概要や義務化の経緯、取り入れ方を学んだ。

HACCPは、日本語で「危害要因分析重要管理点」と訳される衛生管理の手法の一つで食品衛生管理の国際基準となっている。参加した各加工部に持参いただいた衛生管理の記録簿や製造工程を、製造業ごとの手引書と照らし合わせながら確認し、その中で、記録簿に付け足すと良い衛生管理の項目や、製造工程で特に重要とされる「重要管理点」について講師から直接アドバイスを受けた。



齋藤氏は「最初から完璧にできる人はいない。完璧を求めずに講習会などに進んで参加し、徐々に身につけていってほしい」と話す。

講習会の終了後にはランチミーティングが行われ、それぞれの加工部の意見交換など交流を深め、また、講師への質問も活発に行われた。参加者は「普段自分たちだけでは気づきにくい部分も教えてもらい、衛生管理方法の見直しが出来た。今後も衛生管理に気を付けて、地域の特産品のPRをしていきたい」と話した。

【営農企画課 石野】

6次産業化に係る 食品基礎知識講習会を開催

農業
振興部

10月30日、深川保健所専門員の齋藤靖香氏を迎えて「6次産業化に係る食品基礎知識講習会」をJAきたそらち本所で開催し、生産者15名が参加した。

講習会では、農産物加工品を製造・販売する際に必要となる営業許可の種類や、食品表示ラベルの目的や役割、記載方法について学んだ。また、加工内容によって許可が異なることや、アレルギー表示・原材料名の記載方法など、実際のラベル例を示しながら説明が行われ、参加者は熱心にメモを取りながら耳を傾けていた。

質疑応答では参加者から具体的な加工品等の質問が多数あり活発な意見交換が行われた。

最後に齋藤氏から「まずは実際に自分が加工したい物が許可営業もしくは届出営業なのかを考えることが大事。新たに農産物を用いた加工や製造についてご相談があれば、深川保健所へお問い合わせください」と挨拶があり、講習会を終えた。

【営農企画課 高桑】



女性農業者「スキルアップセミナー」を開催

10月24日、JAきたそらち会議室で女性農業者を対象とした「スキルアップセミナー」が開催され10名が参加した。

今回、講師として当JA広報誌掲載の“知っておきたい得する経営情報”や法人化・相続などの無料経営相談会を担当している税理士法人 中央総合会計 村上克博マネージャーと谷ゆかり税理士を迎え、農業経営における簿記の記帳や青色申告の仕組み、個人事業と法人事業の違いなどについて学んだ。

村上マネージャーからは「経理で大切な事はまず伝票の整理をする事。また、会計ソフトを利用し現金管理の手間を省くために組勘やクレジットカードでデータを管理するとよいでしょう」とのアドバイスがあった。

参加者からの質疑応答では、専従者給与や贈与税などについての質問があり、谷税理士からの回答にうなずきながら耳を傾けていた。

【営農企画課 高桑】



農業 振興部

拓殖大学北海道短期大学で出前授業を実施

10月21日、拓殖大学北海道短期大学の1年生27名を対象に、当JAおよび（株）日本農業新聞による出前授業が開催された。

前半は、深川支所営農課の近江陽斗職員が「JAについて」の授業を実施した。同授業の中では、当JAの地域構成や各事業部について説明。各事業部がどのように組合員と連携しているのかなど、具体的な業務内容を紹介した。また同短大の卒業生である近江職員は後輩に向けて、同短大で取得できる資格の中で、仕事に役立つものとしてフォークリフト運転技能講習と食品衛生責任者を挙げていた。学生たちは普段あまり見聞きすることがないJAの業務内容に、興味を示していた。

後半は、（株）日本農業新聞の波多腰巽氏による「新聞の読み方」の授業が実施された。新聞を読むメリットとして、「社会の出来事や経済、文化、科学などの情報に触れることで、幅広い知識が身に付く」「政治や経済の動向、国際情勢などをリアルタイムで把握できる」などの点が挙げられた。また、SNSとは異なり、信頼性の高い正確な情報が得られること、記事の大小でニュースの重要度が直感的にわかることも伝えていた。

今回の出前授業を通じて、参加した学生たちは地域農業を支えるJAの様々な役割と、信頼できる情報源として新聞を活用することの重要性を学ぶことができた。

【営農企画課 坪】



新米と新そばに大行列！ 青年部・女性部がくるるの杜で「農産物フェア」



青年部だより



女性部だより

10月25日、ホクレンくるるの杜（北広島市）で、JAきたそらち青年部と女性部が合同で「JAきたそらち農産物フェア」を開催した。

青年部は、深川産「ふっくりんこ」、雨竜産「ななつぼし」、北竜産「おぼろづき」の新米をはじめ、地元産の特産品を販売した。新米を大特価で販売したことで来場客が行列を作り、用意した計45袋をもの数十分で完売させた。また今回初の試みとして「馬鈴薯と玉ねぎの詰め放題」を実施。挑戦した来場客は袋一杯に詰め込んだ後、青年部員のサービス精神によりさらに溢れさせるほど大量に詰め込むことができ、大変満足した様子だった。

女性部は、かけそば、天ぷらそば、乾麺そばを販売。そばは、幌加内産の新そばを使用し、天ぷらもきたそらち産の野菜を使ったものを提供した。肌寒くなった季節にぴったりの温かいそばに多くの人々が訪れ完売した。また、カットりんご飴も販売。食べやすいサイズとかわいい見た目が子どもたちに大人気で、こちらも午前中で完売となった。

この日は天候にも恵まれたことで、例年よりも多くの来場客が見え、予定よりも1時間早く終了するほど大盛況だった。

【営農企画課 坪】



白熱のドッチビー！ 部員交流会を開催



青年部
だより

11月4日、JAきたそらち青年部がJA研修センターで「部員交流会」を開催した。各支部の部員や青年部事務局・若手職員など53名が参加した。

同交流会は毎年開催されており、今年は「ドッチビー」を実施。開始前にしっかりと準備運動を行った後、支部混合チームを8チーム作り、各チームが個性的なチーム名を設定し競技がスタートした。普段交流することが少ない他支部の部員やJA職員がチーム一丸となり、優勝を目指した。

参加者は、慣れないドッチビーに最初は苦戦したものの、徐々にコツをつかみ、プレーの技術が向上していった。また、女性職員が投げ際には、青年部員はわざと当たりにいたり、あえて避けなかったりするなど、優しさが垣間見えた。

今年は、岩倉竜矢支部長（北竜支部）が率いる「ロサンジェルズドジャース」と笠井陽太会計理事（幌加内支部）が率いる「チームカサイ」が決勝に進出し、激闘の末、チームカサイが優勝をつかみ取った。

ドッチビー終了後は、その場で懇談会を行い、チームごとに談笑しながら交流を深めた。

【営農企画課 坪】



北ブロック青年部 青年の主張で想いを語る 第45回青年部大会を開催

11月6日、JA 空知青年部連合会北ブロックは当JA本所で「第45回青年部大会」を開催し、JAきたそらちとJA北いぶきの青年部盟友30名が参加した。

開会にあたり、同連合会北ブロックの岩倉竜矢代表理事（北竜支部）が「今回青年の主張で発表いただける2名は、大変緊張する中ではあると思うが、堂々と発表していただきたい」と挨拶した。

続いて、大会記念講演が行われた。ホクレン農業協同組合連合会岩見沢支所より熊谷和也支所長を講師に招き、「北海道米の変遷および今後の方向性について」と題し、米の全国の情勢、北海道米の歴史、販売情勢などについて講演いただいた。

JA青年の主張では、当JA青年部深川支部の庄司俊喜氏が「私にとっての青年部」を、JA北いぶき青年部秩父別支部の中村啓斗氏が「土に立ち、未来を耕す」を発表した。

また大会終了後、同会場で行われた懇親会では、余興として「アームレスリング大会」が開催された。各支部から腕力自慢の部員が参加し、トーナメント方式で熱戦が繰り広げられた。結果は、「75kg以下級」で秩父別支部の山崎蓮氏が優勝し、「無差別級」では深川支部の僧都航平氏が優勝を飾った。

【営農企画課 坪】



第45回空知管内JA青年部大会 青年の主張 庄司氏が最優秀賞

11月14日、JA 空知青年部連合会が岩見沢市で、「第45回空知管内JA青年部大会」を開催し、空知管内の各JAより総勢101名の盟友が参加した。その内、JAきたそらち青年部は14名参加した。

同大会では、「JA青年の主張発表大会」が行われ同青年部深川支部の庄司俊喜氏が「私にとっての青年部」について発表した。堂々とした立ち振る舞いが評価され、見事最優秀賞を受賞し、全道JA青年部大会への出場権を手にした。

また、「純農Boy空知オーディション」には同青年部雨竜支部の藤田涼太郎氏が出場し、雨竜支部の活動について熱く語った。続いて「スノーメッセージ2025」と「ファームレター 2025」の表彰式が行われ、同青年部はファームレター 2025で優秀賞を受賞した。

大会後に行われた懇親会では、余興として「アームレスリング大会」が開催され、無差別級には同青年部深川支部の僧都航平氏が出場した。同青年部盟友らがステージ前に集まり、熱い声援を送ったが、惜しくも優勝を逃す結果となった。

全道大会は、12月4日から2日間に渡り札幌で開催される予定。

【営農企画課 坪】



北ブロックJA女性部 合同交流会 開催

10月27日、アグリ工房まあぶでJAきたそらち女性部とJA北いぶき女性部の各支部長による「北ブロックJA女性部合同交流会」が開催され、10名が参加した。

同交流会は毎年行っており、今回はまあぶ加工室で「手打ち蕎麦体験」を行った。

最初にまあぶの講師が、水回し・こね・菊練り・延し・たたみ・切りの工程を素早い作業で実演し、部員から歓声が上がった。

2人1組で交互に蕎麦を打つ作業では、「こねの作業は力があるね」「延しが全然広がらない」などと四苦八苦しながらも、美味しそうな手打ち蕎麦が完成した。2～3人前ある手打ち蕎麦を“本日の晩ごはん”として、それぞれ持ち帰った。

その後、昼食を兼ねた懇親会を行い、それぞれの近況や情報を交換して親交を深めた。

【営農企画課 高桑】



さくらカレッジ 『モルック大会』開催

11月10日、JAきたそらち女性部が「第37回さくらカレッジ」を研修センターで開催した。冬期間の運動不足解消として「モルック大会」を行い、部員21名が参加した。

フィンランド発祥のモルックは、番号が書かれた木製のピン（スキttl）を倒し50点ピッタリになるように得点を競う屋外向けのスポーツ。近年屋内でも楽しめる競技として人気を集めている。

今回はくじ引きによるチーム分けを行ったのち、AブロックとBブロックに分かれ各3チームによるリーグ戦で対戦。初めてモルックを行う参加者も多く見られたが、ゲームが進むにつれ成功すると拍手や歓声が起こり、惜しい場面では「大丈夫、大丈夫」とチーム内で励まし合いながら対戦した。

参加者からは、「モルックは聞いたことがあったけど、実際にやってみるととても面白かった」と感想が寄せられた。

【営農企画課 高桑】



深川西高校1年生 当JAでフィールドスタディ

10月9日、深川西高等学校の1年生2名が当JAにおいてフィールドスタディを実施した。

フィールドスタディとは、企業を訪問し、企業と地域とのつながりや企業が取り組む社会課題を知り、社会や地域についての学びを深めることを目的として同校が実施しているもの。

今回も当JA職員による説明や案内のもと、JAきたそらちの概要や、精米施設および当JA農産物直売所eciRの見学により製造から販売までの流れなどについて学んでもらった。

参加した学生は「たくさんの地域の人達と関わっていること、その地域に住んでいない人も関わりを持っていることがわかった。また、たくさんの業務の種類があり、様々な分野で多くの人を支えていることがわかった。さらに、見学で米どころならではのより専門的な設備を見ることができて、すごくいい体験になった」と感想を話した。

【人事課 墓田】



総務部



令和7年度 JAきたそらち地域農業応援団

第4回～豆腐・米粉シフォンケーキ作り&りんご狩り体験～

10月15日、第4回 地域農業応援団が開催され15名が参加した。今回は音江地区の「アグリ工房まあぶ」で深川産大豆を使用した豆腐と米粉シフォンケーキ作り、午後は同地区の（株）藤谷果樹園でりんご狩り体験を行った。

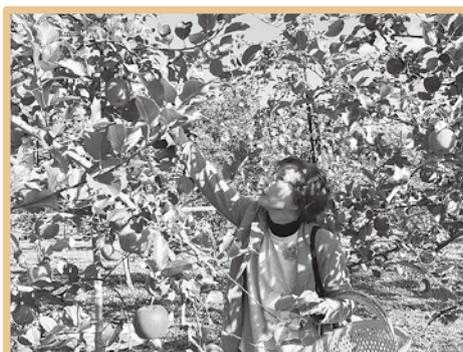
加工体験では、豆腐や米粉を使用したシフォンケーキをグループに分かれ、団員同士で終始楽しそうな会話を弾ませながら調理した。

昼食後は、農業振興部営農企画課 石野亜美職員よりJAきたそらち女性大学「カレッジあみていえ」の活動紹介を受け、次年度への参加意欲を見せる団員もいた。

りんご狩り体験では、同園代表の田川大輔氏より栽培しているりんごの品種や美味しいりんごの見分け方など説明を受け、慎重に吟味しながらりんごを収穫し、参加者からは「たわわに実るりんごを見て感動した。

この地域には美味しい食材が沢山あることを応援団に参加し、改めて気づくことができた」と話した。

【人事課 墓田】

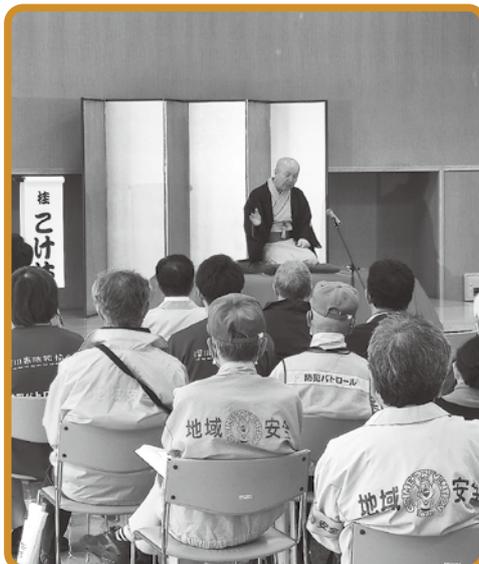


笑いで学ぶ特殊詐欺対策 深川で「安全安心の集い」

10月12日、全国地域安全運動の一環で深川警察署などがJA共済連と協力し「深川地区安全安心の集い」を深川経済センターで開催した。

集いには市民ら約80名が参加。落語家・桂こけ枝さんが、近年多発する特殊詐欺への対策や交通事故防止などをテーマに、落語や小話を交えながら公演し、会場は笑い声の絶えない集いとなった。来場者には当JAから提供された新米がプレゼントされた。

【渉外課 千石】



金融 共済部



音江年金友の会 研修旅行開催

10月30日、音江年金友の会（伊藤博明会長）は研修旅行を実施し、25名が参加した。

今年は小樽名所巡りツアーと題して、小樽貴賓館（旧青山別邸）の見学と昼食を皮切りに、現地にて観光ガイド（2名）同行の下市内の観光スポットを散策した。

前日までの悪天候から一転、当日は比較的穏やかな天候の中、観光を楽しみ、皆無事に帰路に就いた。

【金融共済音江支所 伊藤】

青年部深川支部・雨竜支部のインスタはこちら！



JA.YOUTH_FUKAGAWA



URYU_SEINENB



青年部での活動、日々の農作業の様子などを青年部員が投稿しています♪
ぜひ、フォローしてチェックしてみてください！



足関節外側靭帯損傷

みきた整形外科クリニック 院長 三木田

光



足関節捻挫によって生じる靭帯損傷の一つであり、足関節捻挫の約85%～90%が足関節外側靭帯損傷に該当すると言われています。頻度の高いスポーツ外傷の一つであり、特にジャンプ、着地、切り返しの動作の多いスポーツ（バスケットボール、バレーボール、サッカーなど）で高頻度に発生する。足関節が底屈、内反を強制されることで受傷するため、日常生活でも頻度の高い怪我の一つである。その診断や治療は複雑で難しく、要因としては新鮮例と陳旧例での治療方針の違い、再発率の高さ、不安定性評価の曖昧さなどが挙げられる。

・診断 新鮮例と陳旧例では若干診察の内容が異なるため捻挫歴については詳しく聴くようにする。視診：荷重歩行の可否、足関節の肢位、触診：不安定性の確認と圧痛部位の確認が大切である。検査として超音波検査が靭帯断裂の確認に重要である。単純X線検査、骨折の有無を確認。

・MRI 新鮮例すべてに必要なではないが骨挫傷や骨軟骨損傷などの合併損傷に有用である。治療：新鮮例捻挫歴なしでは強固な固定ギプスカギプスシーネ固定が必要である。損傷の程度により2～3週間の固定を行う。固定後は足関節軟性装具を装着し可動域訓練、筋力訓練、バランス訓練などを行う。捻挫歴ありの新鮮例はシーネ固定、装具固定し腫脹が軽減したら運動療法を行う。受傷前から不安定性が残るときは手術療法も検討する。

・陳旧例の治療 不安定性のある例は筋力低下やバランスの低下が認められるので装具装着による運動療法を行う。運動で不安定性を改善することは難しく手術的治療も検討する。

・手術療法 手術適応は捻挫歴のある新鮮例と陳旧例では不安定性があり手術を選択する可能性がある。しかし装具により不都合なく運動できるときは適応外である。手術を決定する患者の希望が大きいと考えられる。手術治療としてはOPENでの靭帯修復術が主体であったが、近年では鏡視下での靭帯修復術が第一選択となりつつある。

・後療 術後1週間ギプスシーネ固定 理学療法士の元筋力訓練 足関節装具を2～3か月固定し可動域訓練 運動療法等のリハビリを行う必要があります。



社労士の一球入魂

～耕す法と農業者への送りバント～

第2回

農家に「投資」なんて関係ない？
そんなことはありません！

社会保険労務士法人ホームラン
代表社員 社会保険労務士



阿部 秀樹

2005年12月、札幌市中央区で「社会保険労務士法人 ホームラン」を開業。「みんなに喜ばれるいい会社になろう」を経営理念に現在約300件の顧問先の労務相談・助成金代行・401K・給与計算・社会保険手続き・就業規則作成・研修・いい会社研究会などを担っている。



TikTok 配信中

ホームラン社労士 アベ先生
@homerunabe

「農家に投資なんて関係ない」と思っていますか？実はいま、農家さんでもできる「国の制度を使った節税効果の高い、賢い積立」があります。それが【企業型確定拠出年金(DC)】です。

・私たちが社労士が農家さんにこの制度を勧める理由

私たち社労士は、日々、農業経営者の皆さまの「人」に関わるお手伝いをしています。その中でよく耳にするのは、「頑張ってるけど、手元に残るお金が少ない」「老後の備えまで考える余裕がない」という声です。その原因の多くは、「税金と社会保険料」の負担にあります。

企業型確定拠出年金(DC)は、この負担を軽減しながら、将来のために資産を積み立てることができる——つまり、節税と老後の安心を同時に叶える制度です。国の優遇制度を最大限に

活用することこそ、これからの農業経営の新しい「投資」の形といえるでしょう。

・普通の投資との違い

一般的な投資は、「税金や社会保険料を引かれた後の「手取り」から行います。しかし確定拠出年金は、税金や社会保険料を引かれる前のお金で積み立てられるため、掛けるだけで実質30%以上お得になります。預金で30%の利息がつく商品はありません。国が「老後資金を自分で備える人を応援する」ために作った、特別な制度だからこそ、ここまで優遇されています。

なお、この制度は【法人のみ】が導入できる仕組みです。個人事業主では対象外となりますので、法人化している農業経営体の方にこそ、大きなメリットがあります。

・選択制企業型確定拠出年金の5大優遇措置

- ① 積立金は全額損金計上(役員分)
- ② 所得税・住民税が非課税
- ③ 運用益も非課税
- ④ 社会保険料の対象外
- ⑤ 経営者一人から導入可能

・複利で雪だるま式に増える資産
もしお子さんが跡継ぎで、毎月55,000円を積み立てた場合、そのお金をS&P500などの投資信託に回せば、複利の力で雪だるま式に増えていきます(17P「表①」参照)。

DCの口座は60歳まで引き出せないため、「子どもが使い込むこともなく、確実に老後資金を貯められる」という安心もあります。

・家族や従業員への思いやり投資
たとえお子さんが跡継ぎでなくても、「自分の子どもだったらこうして

あげたい」ということを、共に働く若い人にしてあげましょう。この制度は従業員にも導入でき、働く人の将来を守る仕組みとしても役立ちます。

・なぜこんなにお得なのか

国民年金や厚生年金だけでは老後の資金が足りない——その現実を踏まえ、国が「第3の老後資金」として作った制度だからです。

社会保険料や税金を軽減する、普通の保険では考えられないほどお得な仕組みです。

・役員と従業員、それぞれの仕組み
◆役員の場合

・会社が掛金を負担し、その金額は全額損金計上が可能。経費にしながら老後資金を積み立てられる非常に有利な制度です。

◆従業員の場合

・自分の給与の一部を掛金に回す
「選択制」。会社が追加で積み立てをする必要はなく、従業員本人が自分のお金で節税しながら老後資金をつくれる仕組みです。

・NISAとの違い

一番の違いは、NISAは社会保険や税金を引かれた手取りから投資。Dは本来引かれる社会保険や税金を国に取られないで自分の投資に回せることです。

・導入費用も補助対象です！

現在、農林水産省の補助金を活用して、導入費用の一部が補助される場合があります。ただし、個人単位ではなく、地域や団体でまとめて申請する必要があります。詳細はお近くのJAきたそらちや弊社までご相談ください。



表①

運用利回り	30年後の金額(積立55,000円/月) 元本合計1,980万円
8%	約8,500万円
5%	約4,500万円
3%	約3,200万円

新入職員のお知らせ (キャリア採用)

よろしくお祈いします!



令和7年11月1日付

金融共済部 渉外課

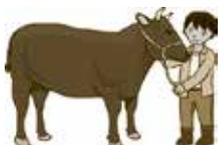
にしかわ りょうと
西川 凌斗

令和7年度 ホクレン南北海道市場和牛・交雑素牛販売情報

開催日
9/10～9/11
市場成績

品種	性別	区分	市場全体		きたそらち農協	
			本年9月実績	前年同月実績	本年9月実績	前年同月実績
和牛	去勢	出場頭数	901	828	27	37
		平均価格	751,425	584,435	695,332	562,070
	めす	出場頭数	618	651	38	45
		平均価格	608,866	468,233	600,661	455,700
交雑	去勢	出場頭数	61	71	0	0
		平均価格	382,360	290,508	0	0
	めす	出場頭数	223	255	75	68
		平均価格	369,735	260,148	365,963	272,218

【平均価格は円・税込価格】



金融共済部からのお知らせ



お子様がいるご家庭の皆さまへ



お子様の**重****い****病****気**に備えていますか？

5～14歳の病気死亡の原因
第1位は「がん」です

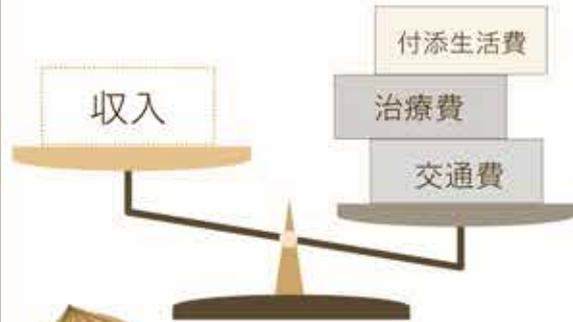
1位 悪性新生物（がん）

2位 心疾患

3位 その他の新生物（腫瘍）

厚生労働省「令和4年（2022）人口動態統計月報年計（概数）の概況」をもとにJA共済連作成

付添いや通院で収入に
影響が生じることも



小さなお子様が入院する場合、病院から24時間付添を要請され、休職や離職を余儀なくされることも

重い病気の治療にはこんな費用が発生します

- 病院までの交通費
- 骨髄移植に関する費用
- 付添生活費
- 保険点数外の治療薬代
- 差額ベッド代
- リハビリ費用

お子様の付添生活費や遠くの専門病院へ行くための交通費が負担になるとの声が多く聞かれます。



簡単なアンケートに答えるだけで

豪華賞品が
当たるチャンス！



応募はこちら▶

金融共済部からのお知らせ

JAの 特定重度疾病共済 なら安心の一時金保障

がんと診断されたとき

一時金 **100万円**

急性心筋梗塞・狭心症
などの心・血管疾患で所定の状態のとき

一時金 **100万円**

脳卒中
などの脳血管疾患で所定の状態のとき

一時金 **100万円**

糖尿病・肝硬変・慢性腎不全
慢性すい炎で所定の状態のとき

一時金 **100万円**

【ご契約例】 特定重度疾病共済 共済金額100万円 共済期間80歳満了 月払（口座振替扱）

（令和7年4月現在）

0歳男性の場合 共済掛金 月々 **983円**



共済掛金は、大人になっても

加入されたときの金額から変わりません。

～お子さまへの『将来へのプレゼント』として安心な保障を～

6歳（男性）で加入すると・・・

月払掛金： 1,130円
総払込掛金： 1,003,440円
（1,130円×74年間×12か月）



30歳（男性）で加入すると・・・

月払掛金： 2,138円
総払込掛金： 1,282,800円
（2,138円×50年間×12か月）



保障期間が24年分も長いのに、トータルの掛金が279,360円も安くなります！

- お子様は成人されたとき、共済契約者を保護者の方から、お子様（被共済者）へ変更することもできます。その場合でも、共済掛金は変わりません。 ※被共済者の同意と組合の承認を得る必要があります。

納得のいく治療を受けさせてあげるために
今から備えましょう

※共済金のお支払いには所定の条件があります。
※この共済には、死亡時における保障はありません。
※特定重度疾病共済金を4回お支払いした場合は契約は消滅します。
※特定重度疾病共済金は、各保険区分につき1回を限度にお支払いします。（第64回）
※この共済において対象となる「がん」は、悪性新生物（上皮内新生物を除く）および脳腫瘍です。
※がんに関する責任（保障）の開始は、ご契約日からその日を定めて91日目からとなります。これより前に被共済者が悪性新生物または脳腫瘍と診断された場合には、がんにかかるとは共済金はお支払いいたしません。
※がん以外にかかる保険区分は別々共済掛金の払込金額についてはご契約日から保障いたします。

お問い合わせは

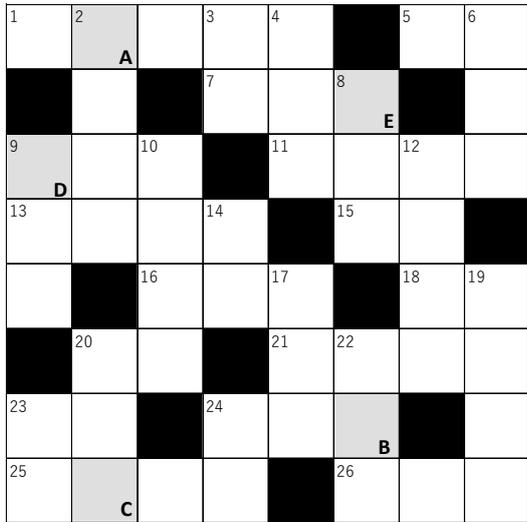
JAきたそらち
共済センター TEL 0164-34-7151

※この資料は概要を説明したものです。詳細につきましては「重要事項説明書（契約概要・注意事項・情報）」および「ご契約のしおり・約款」により必ずご確認ください。

[25019990019]

クロスワードクイズ

提供元:クロスワード.jp



A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

【タテのカギ】

- 利益があること。ためになること。○○○○な情報。
- アフリカやインドに住む、長い鼻の大きな動物。
- 世間の評判。面白がって伝える不確かな話。
- 土を高く盛り上げて造った古代の墓。
- 金を主成分とする貨幣。
- 一般の小売店で売られていること。
- 年下の女の兄弟。
- 微細な粒。
- でんぷん質の物を煮て作った、ねばりけのあるもの。物をはるのに使う。
- 六月から七月中旬にかけて降る季節的な長雨。つゆ。○○○前線。
- 物の強さの度合い。
- 神仏が人間に意思や予言などを告げ知らせること。
- 月と日。
- 地球上の一定の地域に住む人々が一つの組織としてまとまったもの。
- 動物が食べたり、声を出したりするところ。

【ヨコのカギ】

- 急に増えること。
- 結婚して妻の家の一員となった男の人。
- 愛情が他に移りやすい事。気まくれが異性と交わること。
- 市が運営すること。
- 山と林。山中の林。
- くつ・げた・サンダルなどの、歩くときに足にはくもの。
- 多めの水で、米をやわらかく炊いたもの。赤ちゃんや病人の食べ物。
- 品物などを売る場所。売り場。
- 体などが浮かぶこと。体などを浮かすもの。釣り道具のひとつ。
- 空気に伝わって、音波によって耳に伝わるひびき。
- 一つにまとまること。ひとまとめ。同じ行動を共にすること。家族と○○○に出かけた。
- 足を包み、厚い底の付いたはき物。
- 地球をつつんでいる、無色・無臭の気体。
- 逃げていく道。逃げる経路。責任などをのがれる手段。
- ある事が繰り返して起こる度合い。

10月号の正解は

「ドクショ」でした。

正解者の中から抽選で3名が選ばれました。

深川市 太田 とき 様
 滝川市 中村 咲良 様
 深川市 岡田 幸子 様

応募方法

正解者の中から抽選で3名様に農協全国商品券をプレゼント。ホームページ応募フォーム・ハガキ・FAXで①クイズの答え②住所、氏名、年齢③身近な出来事④農協だよりに対するご意見ご要望を記入の上ご応募下さい。

締切12月31日消印有効で当選者とクイズの答えは令和8年2月号に掲載します。

【送り先】〒074-0015 深川市深川町字メム10号線山3線5850番地

JAきたそらち農業振興部営農企画課 FAXの場合は 0164-22-1228

【ホームページ応募フォーム】URL:https://www.ja-kitasorachi.com/living/application_form/

※ご本人以外による応募は抽選の対象外とさせていただきます。



十一月俳句

● 雨竜俳句会

稽田や来期農地のエネルギー
 花姿風にまかせて貴船菊
 パステルに白壁染めて秋桜
 蟋蟀や何食うて肥え話す母
 病室に葡萄の色のよく映えて
 コンサート余韻残して良夜かな

北川 満江
 佐々木 待子
 竹原 美裕
 松本 五月
 宮武 めぐみ
 吉見 サヨ子

● 「道」俳句会 北竜支部

まだ生きるつもり接種冬立ちぬ
 風やみて人の顔めく花芒
 留守二夜月下美人の咲き終えて
 大型車満に積み込む今年米
 冬に入る神秘の光青い池
 眠られむ熊を不憫と思えども

山本 玲子
 山岸 正俊
 阿部 れい子
 山下 好晴
 佐藤 美智子
 吉尾 広子

● 土筆俳句会

熟れきって空家の葡萄乾びをり
 熾火理け祖母は越後衆炬燵の間
 自然界絵心光る山紅葉
 冬ざれの野辺に一灯駆け寄りて
 初雪に足跡残すはしやぐ子ら
 紅葉はまだ色付かず金鱗湖
 切株に団栗隠す栗鼠の宿
 稽田に群がり遊ぶ雀かな
 ぼりぼりの味を丸める婆のみそ

高尾 美津子
 池田 美知
 南川 富美子
 佐藤 菜三子
 滝口 富美子
 菅原 優子
 森田 裕美子
 沼田 留美子
 小橋 厚子

第11回理事会〈令和7年10月28日開催〉以下の事項について決議・承認されました

1. 関係団体等諸会議について
2. 内部監査報告について
3. 組合員の加入脱退について
4. 財務報告及び事業実績について
5. 固定資産の修繕について
6. 令和7年度出資増口について
7. ALM委員会の報告について
8. 職員の人事及び業務事故について
9. 完全週休二日制の導入並びに日直業務の廃止について
10. 令和7年12月営農懇談会の日程等について
11. 令和6年度事業評価結果と令和7年度アンケートの実施について
12. 役員執行体制の検討について
13. 貸出金の貸付報告について
14. 令和8年産「生産の目安」設定の方向性について
15. 令和7年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量について
16. 令和7年産米の集荷状況について
17. 令和7年産農産物の集荷状況について
18. 令和6年産種子大豆の精算について
19. 令和7年度 畜産販売実績（9月末）について
20. 「Kitasorachi Rice Forum～つなげるおこめ～」の開催について
21. 令和7年度 青果・花き集荷販売実績について
22. きゅうり収穫ロボット導入試験について
23. R7春耕期営農軽油対策について
24. R7農薬予約奨励金の支払について
25. R8温床資材価格の設定について
26. R8農薬・温床資材予約推進について
27. 経済部事業実績について

議案第1号 情報セキュリティ基本規程の一部改正について

議案第2号 貸出金の貸付について

議案第3号 理事に対する貸出承認について

議案第4号 令和7年産小麦概算金の設定について



組合員の動き

(令和7年10月末日)

		当期首	加入	脱退	当月末
正組合員	個人	1,156	17	29	1,144
	団体	110	3	0	113
准組合員	個人	5,326	50	54	5,322
	団体	261	2	6	257
正組合員戸数		818	1	10	809



JAきたそらち太陽光発電所 発電実績

○令和7年10月実績

発電電力 39,982kWh

計画対比 9,912kWh

前年対比 Δ4,114kWh

売電金額 1,599,280円 (40円/kwh)

○累計 (R6.12~R7.10)

発電電力463,019kWh

計画対比 66,064kWh

前年対比 Δ68,958kWh

金融共済部からのお知らせ

2025 Winter
定期貯金
キャンペーン

令和7年12月1日～
令和8年1月30日まで

IB・ATM限定

抽選で新米が当たる！！

預入金額100万円につき1口の抽選権を
自動付与します。
抽選で30名様にJAきたそらち産の
お米5kgをプレゼント🎁

※当選者には、こちらから連絡させていただきます。

JAネットバンクがアプリで使えるようになりました！

JAネットバンク・JAバンクアプリプラス

にてお預入れのお客様

年 **0.1%** 上乘せ

【 預入条件 1年～5年 スーパー定期・大口定期 】

ATM にてお預入れのお客様

年 **0.05%** 上乘せ

【 預入条件 1年～5年のスーパー定期・期日指定定期 】